

受診患者

ゲーム・スマホ依存 特徴と対処法

私どもの病院は、2011年7月にわが国で最初に、ネット依存の専門外来を始めました。その年の11月頃まで患者はほとんど来院されませんでした。その後は急速に増えていきました。当初は、ゲーム依存以外にも、SNS、電子掲示板、テレビ等の長時間使用や出会い系サイトでだまされた高齢者等、今より受診理由がバラエティーに富んでいました。ゲームも、ゲーム機やパソコンを使った多人数同時参加型のゲームが大半を占めていました。

受診希望者が特に増え出したのは、スマートフォンのゲーム依存が登場してからで

国立病院機構久里浜医療センター院長

樋口 進

す。現在、受診待ちが長くないように、2カ月に1回予約を取っています。しかし、受付日の朝は、専用回線が鳴りやまず、予定の枠の数倍もの希望者が電話をかけてこられます。これは私どもの病院に限らないと思います。

患者自ら受診を希望するケースは皆無に等しく、本人は説得され、無理矢理に、時にはだまされて連れてこられます。本人を連れてきたが、かなわず家族のみの受診が新患の3割に上ります。受診患

- 1 -

男子中高生が多く、7割は未成年



いる者もいますが、その多くはゲームがらみの使用です。

12年と17年に行われた大規模な中高生に対する調査によると、ネット依存が疑われる者は5年間に1・8倍増えています。依存対象として、ゲームは明らかに男性により多く、SNSは女性に多くいました。また、依存割合は女性が男性より有意に高かったです。

患者の7割は未成年者で、中高生が全体の半分を占めます。男性が圧倒的に多く、男女比は10対1。受診者のほとんどはゲーム、中でもオンラインゲームに依存しています。SNSや動画を使用して

既述の通り、治療現場に現れるのは、ほぼ男性に限られています。この食い違いはどこからくるのか。恐らく、SNSや動画単独では、病院を受診しなければならぬほど、生活や健康状態がひどくならないのでしよう。この現象は、オンラインゲームの高い依存性を反映したものと推測されます。